最優秀賞

「酪農の夢」

鳥取県立倉吉農業高等学校
生物生産科 3年　板持真侑

『獣医になりたい』『病気の動物を一頭でも一匹でも多く助けたい』
それが、私の本来の将来の夢でした。

私の家は、鳥取県西部で酪農家をしています。酪農家は年中無休。私の家も、もちろん同じで、ほとんど遠出することは無かったし、酪農中心で時間が回っていたので、出かけても、時間を気にせずにはいられなかった。それでも、何故か小さい頃は全然気にならず、むしろ「仕事を手伝ってみたい!」という気持ちの方が強かったです。

小学生の頃、「危ないから」という理由で、牛と触れ合うことはあっても、作業をさせてもらうことはありませんでした。その頃の私にとって、母が言う「牛はとても可愛くて、愛情を与えた分だけ返してくれる」という言葉は、沢山の「忙しい・大変・疲れた」という言葉よりも魅力的でした。だから、駄目だと言われても、頼んで、頼んで、仕事をさせてもらえるようになった時は、すごく嬉しかったです。今思えば、自分から進んで大変な仕事をやりたがるなんて、ずれた子供だったのかもしれません。

私が、家を継ごうかなと意識し始めたのは、中学2年の時でした。

「自分から進んで仕事を手伝い始めたのに、継ごうと考えたのは中2?」
と思われるかもしれません。その理由は、手伝い始めて4年くらいで飽きたからです。

小2くらいの時から始めた手伝い。最初の頃は、全てやったことない事ばかりで、どんな仕事でもすごく楽しくて、継ごうかなという考えが、ちらついたりもしました。でも、当たり前ですが、毎回同じ仕事。変化がないし、小6～中2くらいは、最も遊びたいざかり。仕事より外でみんなと遊びたい!その上、親の考えが「そんなにやりたいなら手伝わせてみようか」から「手伝うのが当たり前」と変わり始め、物事を強制されるのが嫌いな私は、牛舎に行くのも嫌になりました。それでも手伝わせるし、年々忙しくなってきていたので、遊びたいざかりなのに、土日はどこにも連れて行ってもらえない。私の苛々は、頂点に達しかけていました。そんな私の唯一の楽しみは、共進会（牛の品評会）でリードマン（牛を引く人）をすることでした。その共進会で、倉吉農業高校に行く理由となる、ある人（Yさん）との出会いがありました。

Yさんに出会ったのは、中2の時。そろそろ進路を決めなくてはいけなくて、一番焦っていた時期でした。前々から動物の死を間近で見ている私は、「もっとこうしたら助かるはずなのに」とか「私が獣医なら絶対死なせない」という思いがありました。
獣医さんには悪いですが、私からすれば、いくら動物の病気を治療する仕事でも、獣医にとっては、治療した動物が治っても治らなくても関係ない＝他人事と思っているようにしか思えない。現に私は、『聴診器も持たずに、治療は注射だけ。』という人や、『「○○という

病気だろう」と、きちんと診察せずに薬を渡して帰り、全然違う病気であったその牛は、治療が遅れて死んでしまった』というのを、見たことがあります。本当に動物を想い、一生懸命治療している人も中にはいると思いますが、そんなのはほんの一握りの人だと思います。だから、「他人には任せられない!せめて、自分の側にいる動物達と、これから私が出会う動物達は、私の精一杯の力で治療したい。」という気持ちがいつの間にか生まれました。でも現実的には多分無理だろうと理解しようとしました。しかし、それでも私は、どうしても獣医になりたくて、本気で悩んでいました。

Yさんに出会ったのは、そんな時でした。その年の春に就農したばかりで、久しぶりの共進会だったと聞きました。だから、出会ったのは本当に偶然で、その偶然が、私の進路を決める鍵となるなんて、偶然はすごいと思いました。

Yさんと一緒に進路の話をしている時、倉吉農高の存在を知りました。倉農の卒業生だったYさんは、倉吉農高についていろいろと教えて下さいました。その中で、私にとってすごく魅力的な部分だったのは、県内唯一の牛がいる農業高校というところでした。作業はともかく、牛（というか動物全般）は大好きなので、会おうと思えばほぼ毎日、牛に会うことが出来るなんて、私にとっては幸せすぎる高校!それに、「獣医になるのに、堅苦しい英語や数学は必要なのだろうか?」と考えていたので、専門教科重視で教えてくれるというところも魅力的でした。家畜の生態構造について学べる「畜産」、繁殖関係について学べる「動物・微生物バイオテクノロジー」、飼料について学ぶ「作物」などの専門教科の授業。それに加えて、何ヶ月かに1回、9日間の実習当番がある。私は、その全ての部分に惹かれました。私にとって倉吉農高は、「獣医になるのは難しい」という部分を引いても、他の高校に勝る魅力がある高校でした。実際3年間通ってみて、今でもそう思えます。

倉吉農高に通って、当番をして、私は、以前と同じように、作業の楽しさを実感しました。そして、自分は本当に牛が好きなんだと、改めて思いました。きっと、倉吉農高に通うことになってなかったら、家を継ぐということを考えることは、絶対に無かったと断言できます。それは、あのまま普通科高校に通っていたら、作業の楽しさを再び実感するどころか、勉強に追われすぎて、作業や牛から遠のいていくことになったと思うからです。そのうち、やりたい事も出来なくなり、高校に入った目的さえも忘れたかもしれません。そう思うのは、今客観的に、「進学校に入学し、勉強についていけず、好きなサッカーが出来なくなりそうな弟の姿」を見ているからだと思います。だから、倉吉農高の存在と、その存在を教えて下さったYさんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、倉吉農高に入学して、1つすごく驚いたことがあります。それは、倉吉農高には指定校推薦というものがあり、中学生の頃からずっと行きたかった「帯広畜産大学」に、私の努力次第で行けるかもしれないということです。倉農を卒業したら、行きたい大学には行けそうも

ないし、即就農しようと考えていたので、帯広畜産に行けるかもしれないと聞いた時、心の中で、飛び跳ねて喜びました。

『帯広畜産大学』

私は、獣医学科があると聞いたとき、何故か「この大学に行きたい!!」と、すごく惹かれました。獣医学科がある大学は、他にも、例えば･･･鳥取大学や麻布獣医大学など沢山あります。なのにも関わらず、名前しか知らない時から興味があり、きちんと帯広畜産大学についてホームページで調べた今も、自分がなぜ他の獣医学科のある大学は、全然目に止まらず、帯広畜産を受験したいのか、ちっとも分かりません。でも、「直感ですごく惹かれて、帯広畜産に行きたいと思った。」というのは、紛れもない事実なので、実際に通ってみて、何にそんなに惹かれたのか、獣医学科はどんな勉強をするのかを、すごく見てみたいです。私は、目標がなかった1年の時とは違い、2年の後半からのテストは、自分なりに頑張ったと思っています。自分の頭の悪さでは、絶対に獣医になることは出来ない、と思いつつも、ずっと捨てきることの出来なかった、『獣医になりたい』という夢。その思いが通じたのか、夢に一歩近づいた今。今出来る事を、残り少しの間頑張りたいと思っています。そして、夢に近づいて行きたいです。

私の夢･･･それは、前の文章を読めば分かるように、『獣医になること』と『酪農家になること』それと、もう1つとても大きな夢があります。『自分の家の牛乳を、他の家の牛乳と混ぜずに商品化すること』です。

私の家は、とても牛乳に気を遣っていて、月3回（いつあるか分からない）×12ヶ月ある牛乳の検査に3年連続で引っかかっていません。それは、体細胞が上がらないように、搾乳の後、手搾りで乳房に余った乳を搾ったり、牛の体調に合わせて餌の分量を変えたりして、常に牛の管理を滞らせないからです。「本当に美味しい牛乳を飲んで欲しい」という気持ちがあるからこそ出来ることだと思います。そのお陰か、我が家の牛乳は、家を訪れた来客の方が飲まれても、皆「美味しい」と言って下さいます。もちろん、私も大好きで、家に居た時は、1日に1.5リットルくらい飲んでいました。

牛乳を新たにブランド化しようと思ったら、莫大な費用がかかります。それは、新たな機械が必要となり、その機械を置く広い土地と建物が必要になるからです。それでも、『私の家の牛乳は、「とても美味しい」と自信を持って言えるので、皆に飲んで欲しい。』と、母の諦められない夢。しかし、どう考えても、母の代で牛乳のブランド化は難しい。そう言っている母の話を聞き、私もすごく興味がわいたので、コツコツとお金を貯めて、私の代でこそブランド化して、絶対みんなを驚かせたいです。

最後になりますが、「私が志す酪農」「酪農の夢」は、今までに書いた夢と、高校入学当初に、打ち姿と胸まで響く振動に魅入ってしまった、牛と同じくらい好きな「和太鼓を続けら

れる酪農スタイル」を考え、実行することです。最初のうちは、仕事にも慣れずに、和太鼓どころではないかもしれません。でも、私の中から和太鼓の存在が抜けることは、絶対にありえないので、徐々に向かって行けたらと思っています。

私の酪農経営をする上での最終目標は、まず「病気の牛を出さない」。万が一病気になった場合は「全力を注いで治療する」と同時に、「自分の家の牛乳をブランド化することを目指し、日々大好きな牛たちと一緒に、仕事に励みつつ、大好きな和太鼓を打てる酪農スタイル」です。これは、学生の私にとって、まだただの夢でしかありませんが、この莫大な夢をなんとしても叶えるために、まず勉強を頑張り、帯広畜産に入ることを目指す。そして、卒業後は研修に行き、学んだことを家での仕事に役立てる。和太鼓のテクニックや基礎を忘れないように、勉強以外で空いている時間は、ずっと練習を続け、出来れば酪農をしながらも続けられるような、どこかの和太鼓の団体に入り、さらにテクニックを磨き続けたいです。就農後は、親の仕事スタイルから、自分独自の酪農スタイルに変えていき、やりたいと思うことは、自分の出来る範囲で実行していきたいです。特に、私は自分で建物を建ててみたいと思っているので、時間と暇があれば、節税のために、ぜひ1度機械庫かなにかを建ててみたいです。

始めは、『獣医になりたい』というたった1つの夢だったのに、今ではとても大きな夢になりました。この夢が、ただの夢で終わらないように、これからも努力を続けていきたいです。自分の出来ることから一歩一歩進んで行ければと思います。